

男性のためのエンパワメント事業（札幌市）

センター・団体名：札幌市男女共同参画センター
〒060-0808 札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ内
電話：011-728-1222
ホームページ：http://www.danjyo.sl-plaza.jp/

男性を対象とした事業の企画にあたって

札幌市が策定した第3次男女共同参画さっぽろプランにおいて、「あらゆる分野で男女共同参画の視点を反映させるための環境づくり」が基本目標のひとつとされており、その中でも男性にとっての男女共同参画に関する意識の啓発が基本施策として盛り込まれている。

平成25年度には、男性を対象とした事業として、「女性に対するあらゆる暴力の根絶」の必要性から、支配関係ではない対等な関係をパートナーと築くために必要な意識啓発を目的とした事業「現代男子心得塾『伊田広行さん講演会』」を実施した。また、「男性、子どもにとっての男女共同参画」の必要性から、職場や地域、家庭といった場面における男性のストレスマネジメントに着目した。男性は、自分の感情を表に出すことはよいことではないとされ、人に弱い面をさらすのに抵抗がある場合も多いため、特に若年層をターゲットとした事業「ココロサブリ」などを実施してきた。

平成26年度には、男性でも気軽に立ち寄れる場であることめざし、男女共同参画センターに来館する男性を増やしていくこと、次に意見交換やロールモデルを探すことができるような男性のネットワーク構築を進めることを念頭に、講座・講演会を実施した。また、ソーシャルネットワークサービスなどを活用し、センターに来ることができない男性にも参加いただける場をつくっていきたいと考えた。

これらの効果として、男性が持つ明確な課題である「長時間労働」や「強い性別役割分担意識」に働きかけるための啓発につながっていくと考える。また、さまざまな男性が参加するネットワークの構築、最終的にはネットワークからロールモデルを輩出し、「男性らしく生きなければならない」ではなく、家庭・職場、地域でしなやかに生きることをメッセージとして発信できるしるみを構築していくことをめざしている。

(平成 27 年度執筆)

1. 事業概要

平成 26 年度に、講座や講演会をとおして、男女共同参画センターが男性でも気軽に立ち寄れる場であることをめざし、次に意見交換やロールモデルを探することができる男性のコミュニティの構築を進める事業として、以下 3 つを実施した。

1 つ目は講演会。男性にとってのワーク・ライフ・バランスの概念を踏まえ、職場、学校、地域で、家庭で、それぞれの個性と能力を発揮できる男女共同参画社会の実現を念頭に、男性が職場だけではなく複数のアイデンティティを得ることで、男性自身の充足感や生きがいにつながるとともに、仕事などで求められる付加価値を見出していきかけづくりとなる事業が必要と考え企画した。

2 つ目は「男子会@SAPPORO」。「男性は仕事、女性は家事や育児」という性別役割分担意識が根強くある現状を踏まえ、「ワーク」（仕事）や「ライフ」（家庭や子育て、地域活動など）をともに充実することの相互作用に着目し、企画した。

3 つ目はトークセッション。働き盛りと言える 30 歳代から 40 歳代に着目し、「職場での上司の理解」にどのようにつなげるか、また自らが部下を持つ立場になったときに、上司としてどのように「ワーク」と「ライフ」の充実を考えていくかの一助として企画した。

2. プログラム

1 講演会「仕事への付加価値を生み出す～ボクが活躍できる新たな仕掛けとは？」

日時

平成 26 年 7 月 3 日（木） 15 : 00～17 : 00

場所

札幌市男女共同参画センター

テーマ

仕事への付加価値を生み出す～ボクが活躍できる新たな仕掛けとは？

内容

講演会・事例報告

講師

講演：渥美 由喜さん（株式会社東レ経営研究所ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部
研究部長 兼 主席コンサルタント）

情報提供：西田 洋平さん（日本アイビーエム・ソリューション・サービス(株)）

2 男子会@SAPPORO

日時

平成 26 年 7 月 24 日（木） 19：00～21：00

場所

札幌市男女共同参画センター

テーマ

「これからの生き方を考えようよ。」～男性の子育てを語る！

内容

意見交換会

※「父親ならではの育児、家事のアイデア」「どういった苦労があるのか」等、男性にとって疑問に思っていることからグループセッションを発展させていった。

講師

コーディネーター：丸山 宏昌さん（NECO 塾 副代表兼事務局長）

3 トークセッション

「仕事と家庭の両立、イクメンからイクボスへ！～職場の上司にどう理解してもらうのか？」

日時

平成 27 年 1 月 15 日（木） 19：00～21：00

場所

札幌市男女共同参画センター

テーマ

仕事と家庭の両立。イクメンからイクボスへ！～職場の上司にどう理解してもらうのか？

内容

基調講演、トークセッション

講師

基調講演：安藤 哲也さん（NPO 法人ファザーリング・ジャパンファウンダー）

トークセッションスピーカー：伊藤 新さん（北海道アルバイト情報社）

3. 男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫

1つの事業について、より身近なテーマとして感じる事が難しいと思われ、参加者が少数となってしまうことから、当センターで発行している男女共同参画情報誌「りぷるさっぽろ」で、「札幌男子、これからの生き方」をテーマに、札幌で当たり前な生活し、当たり前で働く男性たちの声を聴いてみたいと思い、座談会を開催し、その様子を掲載した。

また、同じく1月に開催した「トークセッション」の様子をプロのライターに依頼し、当センターのホームページに掲載し、多くの人が情報を共有できるような仕掛けをしている。

※りぷるさっぽろ vol.37

http://www.danjyo.sl-plaza.jp/files/1114/2770/8844/ripuru37_web.pdf

※トークセッション記事

<http://www.danjyo.sl-plaza.jp/event/02/expo/ikumen/>

4. 成果(講座修了生の活動、地域づくり、男女共同参画の視点、その他)

講演会

講演では、「ワーク・ライフ・バランス」は仕事の業績を上げ、それは足し算ではなく引き算と掛け算の考え方等、とても興味深い話を聞くことができた。また、後半の事例発表では、実際に育児休業を取得した経験や復職後の仕事に対する考え方等、体験を紹介していただき、また、講師のコーディネートによって「イクメン」「イクボス」にまで話がおよび、男性へのエンパワメントへのきっかけにできたと評価し

ている。

男子会@SAPPORO

「男性の子育て」をテーマに、子育てで大切にしていることを共有しながら想いを探求する場となった。ペアインタビューを使って、参加者がお互いの子育てをリストーリーしながら、みえてくる価値観を共有することができたと評価している。

トークセッション

「女性の活躍推進」「男性の家事・育児の参加」「企業への理解」との相互に働きかける必要性について講演いただき、それぞれの立場で「ワーク」と「ライフ」の充実を考えるきっかけになったと評価している。

5. 今後に向けた展望と課題

講演会

事業の反省点として、今回の事業は企業への働きかけを視野に入れていたが、早めの企画立案と十分な広報期間を設定できなかったことで参加者が少数となってしまった。この講演の内容をもとに、男女共同参画センターでも次なる仕掛けを検討していく。

男子会@SAPPORO

この事業の反省点として、早めの企画立案と十分な広報期間を設定できなかったことから、参加者が少数となった。この事業をきっかけとして、客観的統計資料ではなく、男性のエンパワメントにつながる事例発表や情報提供をととした事業展開となるよう工夫していく。

トークセッション

「イクボス」をテーマに盛り込んで企画立案をしたが、身近なテーマとして感じる事が難しいと思われ、参加者が少数となった。今後については、センターとして現状の課題を見極めたテーマ設定を考え、この講演の内容を活かしながら次の仕掛けを検討していく。

(平成 27 年度執筆)

男子会

@SAPPORO



「これからの生き方を考えようよ。」

男性の子育てを語る！

札幌市男女共同参画センター

×

今を生きる実践塾「NECO塾」

日時 平成26年7月24日(木) 午後7時～9時

会場 札幌エルプラザ情報センター

(札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ公共施設1階)

対象/定員 男性/25名(先着順)

参加費 500円

申込方法 札幌市男女共同参画センターに電話(728-1255)かメール(jigyuu@danjyo.sl-plaza.jp)

託児 (1) 1歳以上就学前幼児 定員10名 / (2) 5カ月以上1歳未満の乳幼児 定員5名 ※いずれも、3日前までに要申込

【問い合わせ】札幌市男女共同参画センター(指定管理者:(公財)さっぽろ青少年女性活動協会)

札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ公共施設 TEL 011-728-1255/FAX 011-728-1220 URL <http://www.danjyo.sl-plaza.jp/>

メンズプロジェクト 古市憲寿さんと語り合おう

「僕らの世代の新・幸福論」

～等身大の幸せで満足する僕らの未来は？～（さいたま市）

センター・団体名：埼玉県男女共同参画推進センター（With You さいたま）

〒330-0081 埼玉県さいたま市中央区新都心 2-2

電話：048-601-3111

ホームページ：http://www.pref.saitama.lg.jp/withyou/

男性を対象とした事業の企画にあたって

背景

長時間労働・長時間勤務

東京都内へ通勤・通学している埼玉県民は関東地方で最も多い。中心層は20～40代の働き盛りの男性であり、長時間通勤・長時間労働を日常とするサラリーマンである。

「男は仕事、女は家事&育児」が顕著な子育て世代

埼玉県は全国でもM字カーブの深い都道府県のひとつである。長時間労働、長時間勤務の夫と、その夫を支えるために妊娠・出産を機に職を離れ、家事と育児を一手に引き受ける妻が浮かび上がる。

非正規雇用の増加、従来型でない働き方の模索

平成 27 年 3 月卒業予定の大卒求人倍率は 1.61 倍と前年より上昇しているが、新卒一括採用が根強い日本では、一度つまずくと再就職の門戸は狭いのが現状だ。

非正規雇用のまま職を転々とする、働く意欲はあるが職が見つからない若者男性は多く、長時間勤務の正社員男性との二極化が進んでいる。

未婚率の増加

「出会いの場がない」「定職につけない」など複合的な要因により、男性の未婚率は年々増加している。親と暮らすシングル男性の数も増えている。

当センターの取り組み

広報紙で若年男性へのアンケートを特集

センター広報紙「With You さいたま」2013 年 3 月号で、埼玉県の若年男性のアンケート特集を組む。それをきっかけに、埼玉在住・在勤若年男性による実行委員形式の語り場「じわじわさいたまあ〜ず」が発足する。

埼玉男子の語り場「じわじわさいたまあ〜ず」の試み

地元の NPO で活躍する人、地域情報をネット公開する人、大学院生、トレーナー、若手県職員など 5〜6 人が集い、平成 25 年春に実行委員会を結成する。

平成 25 年度は公開ワークショップを計 3 回、平成 26 年度は非公開のワークショップを計 4 回実施。幸福論や恋愛、地域とのつながり、メンタルケア、ニートの就業支援の実態など、さまざまな考察を行う。

古市憲寿さんを招いてのイベントは、そうした「じわじわさいたまあ〜ず」の活動の中で生まれたものであり、企画・運営は「じわじわさいたまあ〜ず」実行委員による。

(平成 27 年度執筆)

1. 事業概要

目的・ねらい

若者の代弁者の 1 人として活躍中の古市憲寿さん（東京大学大学院総合文化研究科博士課程）を講師として招き、参加者との意見交換を通じて、若い世代の男女共同参画意識の現状を把握する。

若年層の中でも、とりわけ男性の新しい生き方や働きかたについて、参加者とともに考える機会を持つ。

対象

10～30 歳代の県内在住・在勤・在学者（特に男性）を中心に、どなたでも

テーマ

若年男性の生き方・働き方

定員／参加者数

90 人／80 人

開催日時

26 年 8 月 30 日（土）15:00～17:00

会場

埼玉県男女共同参画推進センター セミナー室

参加費

無料

講師（プロフィール）

古市憲寿さん（東京大学大学院総合文化研究科博士課程）

1985 年生まれ 東京大学大学院総合文化研究科博士課程。慶應義塾大学 SFC 研究訪問研究者（上席）。専攻は社会学。大学院で若者とコミュニティについての研究を進める傍ら、コンサルティング会社でマーケティング、IT 戦略立案に関わる。著書に『だから日本はズレている』（新潮新書）、『絶望の国の幸福な若者たち』（講談社）など。

2. プログラム

タイムスケジュール

15:00～15:40

第1部「僕らの世代の新・幸福論」

15:40～16:00

休憩～座ってできるじわじわエクササイズ～

16:00～17:00

第2部「古市憲寿さんと語り合おう」

講座内容

第1部は古市さんと司会者（実行委員）の対話形式で進行。

休憩時間に実行委員（トレーナー）の指導によるエクササイズをはさみ、第2部のワークショップに向けてアイスブレイクを行う。

第2部は会場をつないで、以下のテーマについて話し合った。

- 「今の生活に満足？ 不満？」
- 「Facebook、LINE でつながる愉しみ VS トラブル」
- 「『男は外、女は家』の意識は変わる？」
- 「僕らにとっての幸福な未来は？」

満足度

参加者全体の7割が「満足」

参加者の声

「今、ここ」で暮らす自分や仲間を大切にすることが、自分たちが生きやすい環境を作る最短の道と感じた。（20歳代）

就職活動を控える身として、自分の幸福の尺度をどこに置くかを考えながら、社会に出ていきたいと思った。（20 歳代）

男性も女性も仕事か家庭かの一边倒ではなく、自由な生き方が許される社会になるといい。新たな社会制度を設計していくのは自分たちの責任だと思う。（40 歳代）

3. 男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫

参加型イベント

講師と同年代の司会者が会話を重ねていく進行方法により、若者のリアルな本音も飛び出した。また「〇×札」を使って、参加者の意思表示を求める機会を設けたり、直接声を拾うなどし、参加型イベントならではのホットな会場づくりに努めた。

会場づくりの工夫

古市さんの著書から、若者の「生き方」「働き方」を考えるカギになる言葉を抽出し、8 枚のパネルにして会場に展示した。イベントの進行はそれらの言葉を中心に展開した。

集客の工夫

ハローワーク、若者の就業支援施設、近隣大学＆高校などに直接連絡を入れ、対象となる年代層の参加を募った。

「古市さんの新刊を購入し、イベントに参加した人には著者がサインをする」という案内を付けたポスターを用意し、近隣の書店 8 か所にポスター掲示依頼をした。

4. 成果(講座修了生の活動、地域づくり、男女共同参画の視点、その他)

「イクメン」でも「定年後男性」でもない、若い男性の今に焦点を当てた新しい試みであった。これまで意識されにくかった若い男性の考え方、生き方を知る契機となった。

5. 今後に向けた展望と課題

若者の嗜好を取り入れる「仕掛け」の必要性

若年男性を対象としたイベントだったが、該当年代は参加者全体の半数以下に留まった。若年層の集客には、テーマ設定に加え、若者の嗜好や流行などを取り入れる巧みな「仕掛け」が必要と感じた。

従来の「男らしさ」の縛りからある程度解放されていて、地域でネットワークをつくりたいと考えている若年男性が少なからずいることがわかった。こうした埼玉男子たちが集い、地域で活躍できる場を提供していけるかどうか、今後の課題となる。

仕事に役立つ内容を盛り込む

正社員男性を参加者に見込むには、男女共同参画の直球テーマだけでは難しく、仕事の効率化やスキルアップ、コミュニケーション力アップなど、仕事に役立つプログラムを盛り込む必要性を感じた。

(平成 27 年度執筆)



古市 憲寿さんと語り合おう 「僕らの世代の新・幸福論」

～等身大の幸せで満足する僕らの未来は？～



撮影／佐々木恵子

古市 憲寿 Furuichi Noritoshi
東京大学大学院総合文化研究科博士課程

1985年、東京都生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程。慶應義塾大学 SFC 研究所訪問研究者（上席）。専攻は社会学。大学院で若者とコミュニティについての研究を進める傍ら、コンサルティング会社でマーケティング、IT 戦略立案に関わる。著書に『だから日本はズレている』（新潮新書）、『絶望の国の幸福な若者たち』（講談社）など。

8月30日(土) 15:00 ~ 17:00

■会場：埼玉県男女共同参画推進センター
(With You さいたま) 4階セミナー室1

■定員：90名（先着順） ■参加料：無料

■主な対象：10～30代の県内在住・在勤・在学者を中心にどなたでも参加できます。

■プログラム

第1部 15:00 ~ 15:40

「僕らの世代の新・幸福論」

古市 憲寿さん（東京大学大学院総合文化研究科博士課程）

休憩～「座ってできるじわじわエクササイズ」～

第2部 16:00 ~ 17:00

「古市 憲寿さんと語り合おう」

- 今の生活に満足？ 不満？
- Facebook、LINE でつながる愉しみ VS トラブル
- 「男は外、女は家」の意識は変わる？
- 僕らにとっての幸福な未来とは？…など。

お申込みは裏面を
ご覧ください

■主催：埼玉県男女共同参画推進センター・(With You さいたま)
■企画・運営：埼玉男子の語り場「じわじわさいたま〜ず」実行委員会



埼玉県のマスコット
「コバトン」

古市 憲寿さんと語り合おう「僕らの世代の新・幸福論」

「教育格差」「就職難」「非正規率の増加」など、若者を取り巻く社会は閉塞感が漂う。
一方で、同じような価値観を共有できる仲間がいれば、今ある生活に満足する若者も。
独自の若者論を展開する古市憲寿さんと、同世代の僕らの幸福観&未来について語り合おう。

申込方法 & お問い合わせ先

■ **申込み**：電話、Mail、Fax、電子申請（ホームページ）で
①氏名（ふりがな）、②住所、③連絡先電話番号を
明記の上、「メンズプロジェクト講演会」係まで
お申込みください。

■ **保育**：6カ月以上の未就学のお子さまをお預かりします。
保育料・お子さま一人につき 300 円。
定員 20 名（先着順） ※受付は8月23日（土）まで

■ 申込み & お問い合わせ：

〒330-0081 さいたま市中央区新都心 2-2
（ホテルブリランテ武蔵野 3・4 階）

埼玉県男女共同参画推進センター（With You さいたま）

Tel/048-601-3111 Fax/048-600-3802

Mail/m013111f@pref.saitama.lg.jp

ホームページ **With You さいたま** **検索** 

※お預かりした個人情報、本講座の運営目的のためだけに
使用し、他の目的で使用することはありません。

※利用者用の駐車場はございません。
公共交通機関をご利用ください。

アクセス

JRさいたま新都心駅より
徒歩5分
JR北与野駅より
徒歩6分



埼玉男子の語り場じわじわさいたまあ〜ず 実行委員募集中

生き方、働き方、職場の悩み、マネー問題、恋愛・結婚など、身近なテーマを
ざっくばらんに語り合う 10 ~ 30 代の埼玉県在住・在勤・在学男性対象の語り場です。
次回の実行委員会は

8月8日（金）19：00 ~ 20：30 於・With You さいたま 和室

テーマ「職場ストレスの実態を聞く」

中小企業のメンタルヘルス対策コンサルタントに話をうかがいます。（参加無料）

●お問い合わせ先：With You さいたま「じわじわ実行委員会」係 Tel 048-601-3111

気軽にどーぞ
出入り自由



埼玉県のマスコット
「コバトン」

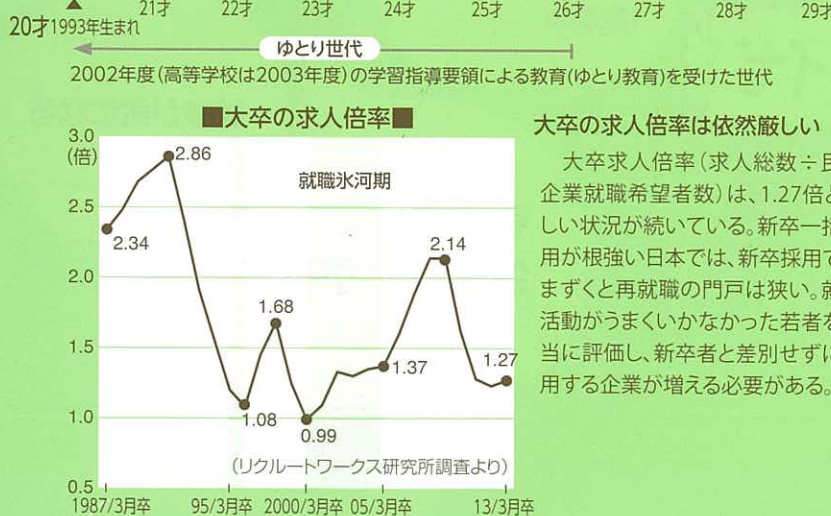
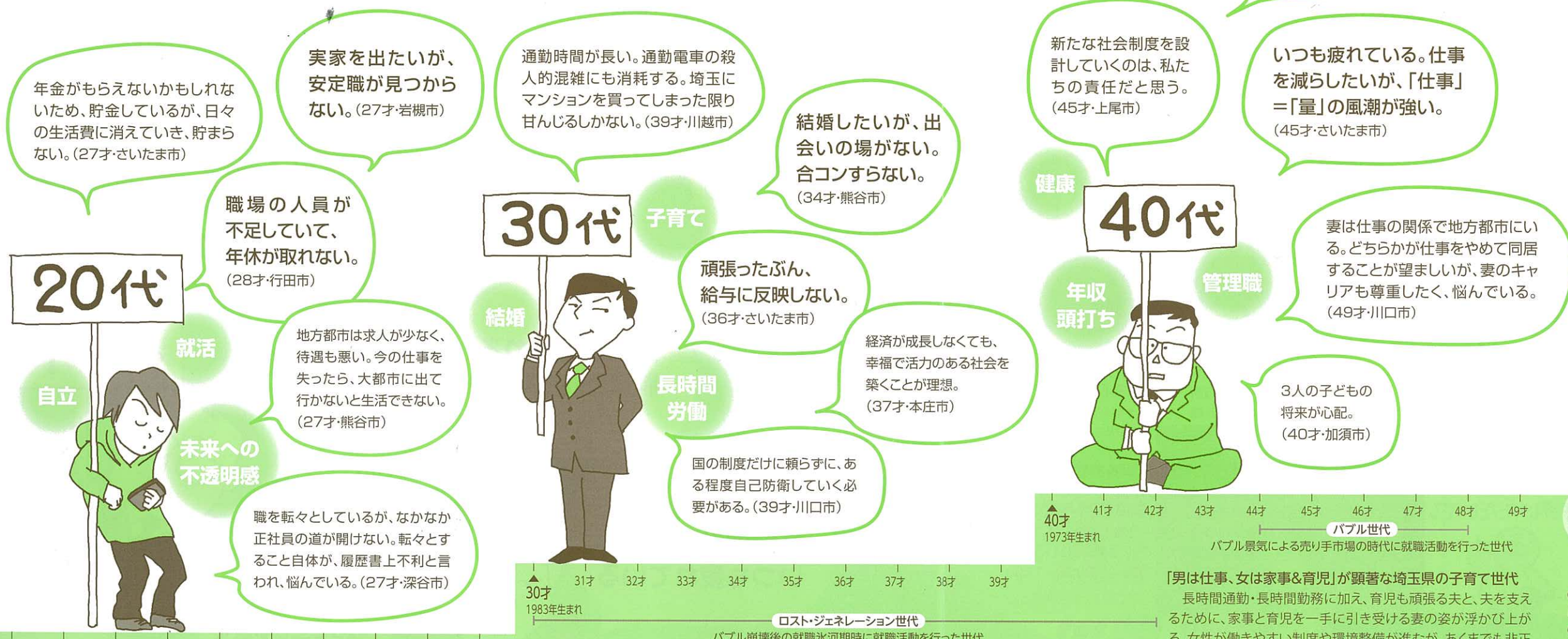
埼玉県在住・在勤
20・30・40代
男性アンケート

就活・収入・仕事・結婚・子育て……

僕の理想と現実 本音トーク

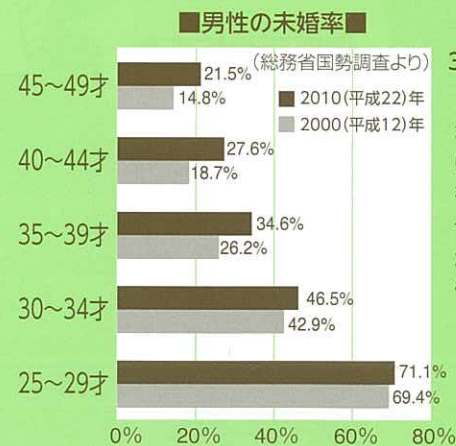
長時間通勤・長時間労働のサラリーマンが多く、「埼玉都民」とも揶揄される私たち。20・30・40代の働き盛りの埼玉県在住・在勤男性は何を考え、どんな未来像を描いているのでしょうか。「現在の生活で悩んでいること」「関心のある

こと」をテーマに県内男性にアンケート調査を行った結果、215人から回答を得ました。経済格差や年金問題など、閉塞感の漂う社会で、もがきながらも、自らの理想のために未来を模索する「埼玉男子」の姿が浮んできます。



大卒の求人倍率は依然厳しい

大卒求人倍率(求人総数÷民間企業就職希望者数)は、1.27倍と厳しい状況が続いている。新卒一括採用が根強い日本では、新卒採用でつまずくと再就職の門戸は狭い。就職活動がうまくいかなかった若者を正に評価し、新卒者と差別せずに採用する企業が増える必要がある。



30代後半以降横ばいの傾向

年齢が上がるにつれ、未婚率が下がった2000年に比べ、2010年の統計では、30代後半以降横ばいの傾向。結婚を考へない人がいる他、結婚資金不足や出会いの場の減少など複合的な要因がある。同時に親と暮らすシングルの数も増加している。

「男は仕事、女は家事・育児」が顕著な埼玉県の子育て世代

長時間通勤・長時間勤務に加え、育児も頑張る夫と、夫を支えるために、家事と育児を一手に引き受ける妻の姿が浮かび上がる。女性が働きやすい制度や環境整備が進むが、あくまでも非正規雇用が中心。男性正社員の働き方を変えない限り、社会構造そのものは変わらない。

埼玉県のパパは「仕事」も「家事」も頑張っている！

埼玉県のパパ	平均時間/日	全国ランキングでは…
通勤&仕事時間	9時間26分	全国 2位(1位 神奈川県)
育児時間	1時間 3分	全国 3位(1位 秋田県)
睡眠時間	7時間 0分	全国46位(1位 富山県)
休養・自由時間	2時間 5分	全国46位(1位 北海道)

埼玉県のママの通勤&仕事時間は全国35位と低い

埼玉県のママ	平均時間/日	全国ランキングでは…
通勤&仕事時間	1時間31分	全国35位(1位 山形県)
育児時間	4時間 2分	全国 5位(1位 岩手県)

総務省2011(平成23)年「社会生活基本調査」より
※いずれも6才未満の子どものいるパパママを対象とした調査。

メンターに聞く

男性の新しい生き方を制度を変える力に

阿部真大さん
(甲南大学文学部社会科学准教授)

阿部真大(あべまさひろ)
1976年岐阜県岐阜市生まれ。
東京大学文学部社会学専攻、専門は労働社会学、家族社会学。主な著書として「居場所の社会学」(日本経済新聞出版)がある。



アンケートからは不景気の時代を生きる今の男性の不安感が読み取れる。特に雇用に対する不安感が強いようだ。いまだに「男が稼いで女が家庭を守る」という規範の根強い日本だから、特にそのプレッシャーが男性に重くのしかかっているのだろう。稼がなくてはならない、養わなくてはならないと頑張りつつ、厳しい労働条件のなかで倒れていく男性のことを思うと胸が痛む。まじめな人ほど責任感が強く、自分の役割を果たせないと自分のことを責めやすいものだ。

しかし一方で「イクメン」(育児する男性)の浸透を喜ぶ声があったことから分かるように、旧来の男性役割を見直そうとする動きも見られる。彼らは新しい男性の生き方を積極的に受け入れようとしている。今後こうした動きが社会全体に広がり、制度を変える力となっていけば、社会は少しずつ変わっていくかもしれない。

埼玉県男性アンケート

男ゆえに生きづらいと感じることは?

ある

- 飲み会の会費が、男性のほうが高い。(24才・小鹿野町)
- 「男性=働く」が現在も日本のスタンダード。多様な生き方は言葉のみで、選択肢としては正社員が否か。常に競争を強いられている。(27才・さいたま市)
- 男らしさを強要されてきたこと。そのことに気づいただけでも幸せ。(47才・志木市)
- 子どものおむつ替え用ベッドのない男子トイレがある。(37才・さいたま市)
- 育児取得に対し、「男がなぜ取るのか」と陰口をたたかれた。(32才・坂戸市)



●男性は主たる生計維持者であることを求められる。男性も女性も仕事か家庭かの二択でなくてよい。そんな生き方が許される社会が、最も生きやすい。(49才・川越市)

●表面上男女平等でも、管理職への昇進など、実際には男性が優遇されている。(30才・宮代町)

●家事・育児をする男はほめられる。10年前に子どものベビーカーを押していた頃は、「えらいわね」という視線が多かった。今は「普通」になってよかった。(45才・上尾市)

男女共同参画視点に立った男性の地域活動の事例（３）（４）

事例３ 男性の生き方講座（子育て期）Men's Labo メンズラボ ～パパからはじめる Happy Life～

事例４ 男性の生き方講座（定年期）男たちのわたし探し ～今までよりも これからを～

センター・団体名：新潟市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」

〒950-0082 新潟市中央区東万代町 9-1（万代市民会館内）

電話：025-246-7713

ホームページ：<http://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/danjo/alza/index.html>

男性を対象とした事業の企画にあたって

新潟市は古くから「みなとまち」として栄え、明治 22 年の市制施行以来、近隣市町村との合併によって人口約 81 万となり、平成 19 年 4 月 1 日には本州日本海側初の政令指定都市となった。

本市は、整備された高速道路網や上越新幹線により首都圏と直結しているなど、陸上交通網が充実しているほか、国際空港、国際港湾を擁し、国内主要都市と世界を結ぶ本州日本海側最大の拠点都市として高次の都市機能を備えている。一方で、広大な越後平野は、米のほか、野菜、果物、畜産物、花き類など、農畜産物の一大産地である。また、日本海側に面し、信濃川・阿賀野川の両大河、福島潟、鳥屋野潟、ラムサール条約登録湿地である佐潟といった多くの水辺空間と里山などの自然に恵まれている。

新潟市では、昭和 63 年に市民との協働により「新潟市女性行動計画」を策定し、当センターは平成 3 年に「女性センター」としてオープンした。平成 13 年に「新潟市男女共同参画行動計画」を策定し、平成 17 年の新潟市男女共同参画推進条例の施行に合わせ、名称を「男女共同参画推進センター」（愛称 アルザにいがた）に改め、男女共同参画の推進に取り組む拠点施設として現在に至る。運営

形態は市の直営で、職員は5名である。

男性のための講座は、平成18年までは定年期の男性を対象にジェンダーへの理解と家族や地域のかかわりを考える講座を実施してきた。平成19年度からは子育て期の男性を対象にした講座を増やし、子育て期と定年期の男性それぞれに、仕事中心の生活や性別役割分業の見直しなど、男女共同参画の意識啓発を行ってきた。

しかし、平成26年度実施の男女共同参画に関する市民意識調査では「男は仕事、女は家庭という考え方について賛成ですか、反対ですか」という質問に「賛成・どちらかといえば賛成」と回答したのは、女性で33.0%、男性では43.7%で、その理由に「男性は仕事、女性は家事・育児・介護にむいているから」や「女性が外に出ると、家事・育児・介護にさしかえるから」と回答するなど、未だ性別役割分担意識が根強く残っていることがわかる。

男女共同参画社会を実現するために、男性のあらゆる世代での性別による役割分担意識の解消を進めることが、拠点施設としての大きな役割の一つであると考えている。

講座の企画にあたり、過去の参加者アンケートを分析し、当市男女共同参画行動計画の目標との整合性を図りながら、興味や関心を持ってもらえるものをプログラムに組み込むよう心掛けている。「女性問題を学習するところ」「男性が糾弾される場所」といったイメージを払拭し、男性にとって身近なテーマを取り上げて、男性が参加してみたいと思われるような企画を目指している。

また、子育て期はもちろん、定年期の講座にも保育を準備し、子（孫）育ては女性も男性も共に担うことを実践してもらっている。

参加の呼びかけは、毎週日曜日に発行している市の広報紙「市報こいがた」への掲載、公民館・図書館・コミュニティセンターといった公共施設へのチラシの配布のほか、メール登録者へ直接案内している。また、女性対象講座の参加者にチラシを配付し、夫の背中を押してもらっている。家族に勧められて参加する男性も現れているようだ。ほかに、男性が施設に足を運ぶための工夫としては、「対象者を絞った講座タイトルにする」「前年度のアンケートを参考に、対象者が参加しやすい日時を設定する」「講座終了後に懇親会を行い仲間づくりの支援を行う」などを実践している。

(平成27年度執筆)

事例3 男性の生き方講座（子育て期）Men's Labo メンズラボ

～パパからはじめる Happy Life～

1. 事業概要

目的

ロールモデルのない世代の父親が、講座を通して、自分なりの父親像や子育て方法を見出すとともに、ワーク・ライフ・バランスという考え方を学ぶことにより、より良い家族関係を築けるよう仕事と家庭の両立について考える。また、子育てを語り合える仲間づくりの場を提供する。

日時

講座1回目

6月29日（日）午前10時～正午

講座2回目

7月6日（日）午後2時～4時

講座3回目

7月12日（土）午後2時～4時

対象

子育て中の男性20人

会場

講座1回目

新潟市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」研修室

講座2回目

食育・花育センター 調理実習室

講座3回目

新潟市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」視聴覚室

募集方法

電話または新潟市ホームページからの申込み（公募多数の場合抽選）

保育

あり 15人（29日、12日のみ）

広報

市報：6月8日号掲載、チラシ配布（公民館・図書館・子育て支援センター・児童センターなど）

予算

100,140円（講座2回目調理実習の材料費は自己負担 500円/1人）

2. プログラム

1 回目

6/29(日)10:00～12:00

テーマ

男のワークライフバランス

イクメン・カジダンのメガトレンド

ねらい

- 1.ワークライフバランスについて学ぶ
- 2.家事育児に積極的に関わりたいが、何をしたらよいか悩んでいる父親が、自分なりにヒントを見つけてもらう
- 3.育児中という同じ環境のパパたちと仲間づくりを行う

内容

ワークライフバランス

時間の使い方

娘だけでなく息子にも家事・育児力を付けるよう育てる

方法

講義

ワーク

質疑応答

講師

今井進太郎さん(いまい しんたろう) (にいがた子育て応援団トキっ子くらぶ代表)

2回目

7/6(日)14:00~16:00

テーマ

男の家事

実験！?「パパのわくわく定食」

ねらい

1.家事の役割分担の幅を広げるため、簡単な調理技術を身に付ける

内容

食事を作りを、最初から最後までひととおり体験する

方法

調理実習

質疑応答

講師

仁科誉広さん(にしな たかひろ)(新潟調理師専門学校講師)

3回目

7/12(土)14:00~16:00

テーマ

男のジェンダー

Happy Life 進化するパパ

ねらい

1.ジェンダーについて理解する

2.家事育児に積極的に関わりたいが、何をしたらよいか悩んでいる父親が、自分なりにヒントを見つけてもらう

- 3.子育てに関わる楽しさを知り、なおかつ育児が自分を成長させることを理解する
- 4.夫と妻が経済的に自立する重要性を理解する

内容

ジェンダー

三歳児神話から離脱し男性も家事・育児に参画する必要性を知る

子育てを楽しんでいる姿を子どもに見せる

方法

講義

ワーク

質疑応答

講師

土堤内昭雄さん(どてうち あきお)(ニッセイ基礎研究所主任研究員)

3. 男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫

平成 25 年までは市民企画委員による市民参画での企画・運営を実施していたが、企画委員の中に子育て中の男性がいなかったため、自らが子育て中の職員が企画・運営を行った。なおも前年の参加者からヒアリングを行うことで当事者性を確保し、講座の企画に反映させた。

また、これまでは座学中心の講座であったが、課題解決型、講座終了後にアクションにつながる内容が必要であるとの反省を踏まえ、家事への参画に繋がるよう調理実習を取り入れた。

調理実習の講師は、参加者が抵抗を感じないで性別役割分担意識について考えられるようにと、子育て中の男性を選定した。また、実習の中で参加者が毎日料理をする大変さや料理を作る人への感謝などに気付き、より積極的に家事・育児にかかわるように講師と打ち合わせを行い、講師が家庭でどのように家事や育児にかかわっているかを交えながら進めてもらった。

また、調理実習以外の講師も、家事・育児に積極的にかかわる上でのロールモデルとなるような人を選んだ。当事者性を重視し、参加者と近い世代の子育て中の男性講師と、子育てに主体的にかかわった経験のある男性講師を選定した。

4. 成果(講座修了生の活動、地域づくり、男女共同参画の視点、その他)

アンケートの結果から抜粋

- 1.これまで意識的に行っていた家事・育児に何かやれることを加えるようになった
- 2.できるだけ主体性を持って取り組もうと思う
- 3.一日の生活で気持ちに余裕がもてるようになり、子供と遊ぶのが一段と楽しくなった
- 4.もう少し妻のことも考えて行動しようと思った
- 5.自分のマネジメントをよりよくして時間を作っていきたいと思う

家事・育児にこれまで以上に積極的に参加しようとする意識が向上したことや、ワーク・ライフ・バランスについて考え直すきっかけになったようだ。

また、講座終了後に懇親会を開催し仲間づくりを支援した。参加者のほぼ全員が、前年度の参加者が立ち上げた自主グループへ入会した。

前述の自主グループは、当センターの利用登録団体として活動しており、「利用登録団体交流会」に参加し、センター設立当初から男女共同参画の活動をしているベテランのグループと積極的に意見交換をしていた。また、地域では父親発信で家族と地域の調和を目指し、季節ごとに家族参加型のイベントを行っている。

5. 今後に向けた展望と課題

定員数に対し、同数の申込みがあったものの、仕事などの理由で当日の欠席者が多かったことは、働き盛りの世代の男性を講座に呼び込むことは、土曜・日曜であっても難しいと感じている。

「自分なりの父親像や子育て方法を見出すとともに、ワーク・ライフ・バランスという考え方を学ぶことにより、より良い家族関係を築けるよう仕事と家庭の両立について考える。また、子育てを語り合える仲間づくりの場を提供する。」という目的だったが、一過性のものとならないためにも仲間づくりは重要であり、当センターの利用登録団体として活動することは、その意味で団体にとってメリットがあるのではないか。

また当センターにとっても、貴重な情報を得られるメリットがあるうえ、どのように連携していくかは模索



中ではあるが、様々な可能性を秘めていると感じている。子育てが終われば新たな局面に移行するが、その後も男女共同参画を推進する力になってもらえるよう支援したい。

今後も、子育て世代の男性の課題やニーズ（関心）を把握しながらプログラムに活かし、参加者を確保し、事業を継続して実施したい。

（平成 27 年度執筆）

～パパからはじめるHappy Life～

世の中のパパは、育児に家事にガンバっていますよね。

でも、イマイチこれでいいのかわからない・・・
妻に認められない・・・
なんてことはありませんか？

この講座に参加して自分なりの生き方を磨きましょう！



**参加
無料**

**連続
講座**

**講座のみ
保育あり**

メンズ ラボ Men's Labo

6/29
10:00~12:00
日

いまい しんたろう
今井進太郎 さん

にいがた子育て応援団
トキっ子くらぶ 代表

イクメン・カジダンのメガトレンド
会場：アルザにいがた

1

7/12
14:00~16:00
土

どてうち あきお
土堤内昭雄 さん

ニッセイ基礎研究所
主任研究員

Happy Life 進化するパパ
会場：アルザにいがた

3

- 対象 子育て中の男性 20 人
(応募多数の場合抽選)
- 申込 「かんたん申込み」(詳細裏面)
または 電話でアルザにいがた

- 保育 15 人(保育定員を超えた場合抽選)
＜生後 6 カ月から就学前まで＞
* 保育協力費 *
お子さん 1 人につき 1 回 200 円
＜初回に 400 円全納＞

申込締切:6月18日(水)必着

7/6(日)とオプションには保育は付きません。

うま〜できるか?

実験!?「パパのわくわく定食」

にしな たかひろ

仁科 誉広 さん

新潟調理師専門学校 講師

会 場：食育・花育センター（アクセスは裏面）
持ち物：エプロン・三角巾(バンダナ)・手拭き・タオル
材料費：500 円

2

= オプション =

いざ！懇親会へ！

.....
子育てを語り合える仲間をつくりませんか？

とき：7月12日（土）講座終了後
会費：当日徴収

＜希望者のみ＞



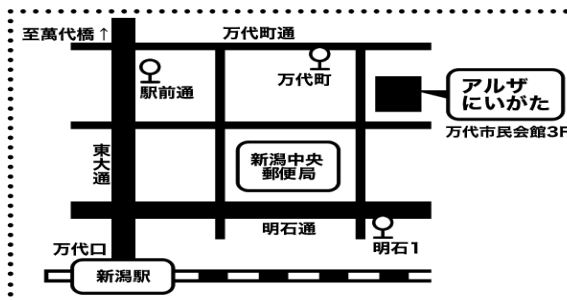
問
い
合
わ
せ



〒950-0082
新潟市中央区東万代町9-1(万代市民会館3F)
TEL:025-246-7713
FAX 025-246-8080
E-mail alza@city.niigata.lg.jp



アルザにいがたHP



◆新潟駅から徒歩7分。駐車場がありません。周辺の有料駐車場をご利用になるか公共交通機関でお越しください。

【講師プロフィール】

今井 進太郎（いまい しんたろう）さん

●にいがた子育て応援団 トキっ子くらぶ 代表
長岡市生まれ。慶應義塾大学経済学部を卒業後、マーケティングのコンサルティング会社の勤務を経て、2006年に販売・営業支援を行うグローバルマーケティング株式会社を設立。
2007年春より、新潟県内で子育て家庭優待カードの運営や子育てイベントを行う「トキっ子くらぶ」を創設。
トキっ子くらぶの会員は約8万世帯、子育て家庭を応援するお店は700店舗以上に及び。

土堤内 昭雄（どてうち あきお）さん

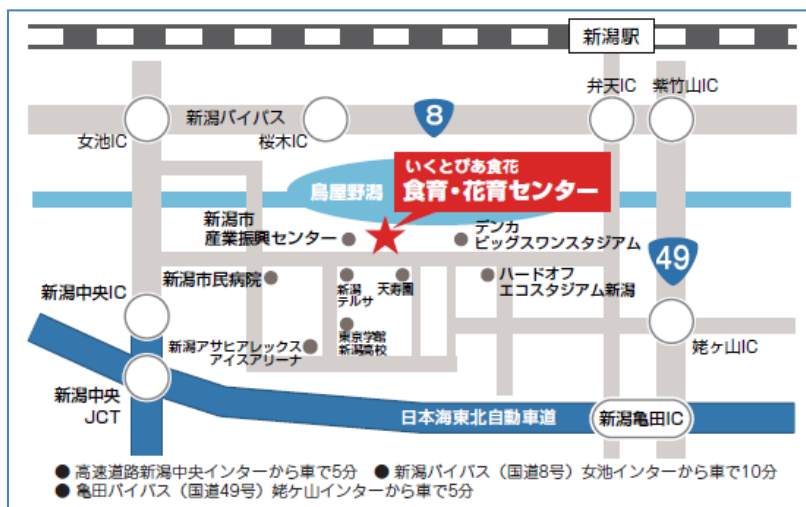
●1988年ニッセイ基礎研究所入社。
研究・専門分野は「少子高齢化・家族」「市民社会・NPO」「都市・地域計画」など。
厚生労働省社会保障審議会児童部会委員、東京都千代田区男女平等推進区民会議委員。
著書に「父親が子育てに会う時」(筒井書房)他。

仁科 誉広（にしな たかひろ）さん

●佐渡市出身。1994年3月新潟調理師専門学校卒業後、研究生として学校に在籍
1996年4月 割烹たつみ（西区小新）入社
2000年4月 新潟調理師専門学校職員として入社
2002年3月 日本料理専門調理師を取得、日本料理実習講師となり現在に至る。



【7月6日講座会場：食育・花育センター】



アクセス方法

- 高速道路新潟中央インターより5分
- 新潟バイパス(国道8号)女池インターから10分
- 亀田バイパス(国道49号)姥ヶ山インターから5分

「かんたん申込み」の方法



携帯から⇒

右の二次元バーコードを読み取ると
「かんたん申込み」画面につながります



PCから⇒

新潟市役所HP内<アルザにいがた>→<新着情報>
の講座募集情報から「かんたん申込み」画面につながります

アルザにいがた



事例 4 男性の生き方講座（定年期）男たちのわたし探し

～今までよりも これからを～

1. 事業概要

目的

定年前後の男性に、目標と自己尊重の再構築を促し、家庭や地域におけるジェンダーの視点から活動のあり方を考える。

介護に対する考え方や実践での心のあり方を学ぶ。

日時

講座 1 回目

1 月 2 4 日（土）午後 2 時～ 4 時

講座 2 回目

1 月 3 1 日（土）午後 2 時～ 4 時

対象

定年前後の男性 3 0 人

会場

新潟市男女共同参画推進センター「アルザいいがた」研修室

募集方法

電話または新潟市ホームページからの申込み（先着）

保育

5 人

広報

市報：1月4日号掲載、チラシ配布（公民館・図書館・スポーツ施設など）

予算

82,410円

2. プログラム

行動計画

目標1「男女の人権尊重と男女共同参画への理解促進」－（1）－① 家庭・地域等への広報・啓発活動の推進

目標1「男女の人権尊重と男女共同参画への理解促進」－（1）－④ 地域リーダーの育成

目標4「仕事と生活の調和（ワークライフバランス）の推進」－（1）－③ 家庭生活・地域活動への男女共同参画の促進

1回目

1/24(土) 14:00～16:00

テーマ

これからの人生を“生きる”

ねらい

上記、行動計画のとおり

内容

これまでとこれからの人生を考える

地域に関わる前に、くじけず、ポリシーを持ち、自然体でやっていける心構えを身に付ける

他者との関わりで自分の生き甲斐を見つけるきっかけづくりをする

ジェンダーに気付く

方法

講義

グループワーク(質疑、意見交換を十分に確保する)

講師

中村彰さん (オフィスなかむら代表)

2 回目

1/31(土) 14:00～16:00

テーマ

介護する人 される人 ～充電しながらしなやかに～

ねらい

上記, 行動計画のとおり

内容

介護における孤独や孤立をなくす

心が折れないためのスキルを学ぶ

介護における虐待を防止する

ジェンダーに気付く

方法

講義

グループワーク(質疑、意見交換を十分に確保する)

講師

等々力務さん ((社)認知症の人と家族の会新潟県支部副代表)

3. 男女共同参画の視点に立った事業を実施するための工夫

講座プログラムは、様々な地域活動をしている市民の企画委員の経験を生かして、退職後の男性が心を折ることなく社会に参画していくにはどうしたらよいかという視点を交えながら、家庭・地域・仕事のバランスの見直しと、性別役割分担意識からの解放を中心に講座を組み立てた。

1 回目は「生き甲斐探し」2 回目は「介護」を前面に打ち出し、誰でも参加しやすい雰囲気作りに努めた。

1 回目の講師は、著書や講演活動の実績を調査し、ジェンダーについてわかりやすく説明していただける

講師を探したが、参加者が「性別による役割分担意識を解消」を自然に受け入れやすいように同年代の男性講師を選定した。

2 回目の講師は、昨年の参加者に好評だった講師を再度招いた。

また、開催日時は前年のアンケート結果に基づき、仕事をしている男性も参加しやすいように、土曜午後とした。

過去に、仲間作りを目的とした参加者もいたことから、講座終了後に行う仲間作りのため懇親会については、広報の初めの段階から P R した。

4. 成果(講座修了生の活動、地域づくり、男女共同参画の視点、その他)

アンケートの結果から、家庭・地域・仕事のバランスの見直しと、性別役割分担意識からの解放について考えるきっかけになったという点では、参加者の意識に変化があったようだ。

講座終了後は、懇親会を開催し仲間づくりを支援した。

参加者による自主グループの立ち上げには至らなかったため、今後も活動が続けもらうために、既存のグループを紹介した。

5. 今後に向けた展望と課題

定員に対して申込みが少なく、この年代の男性から参加してもらうことの難しさを感じている。しかし、この年代の男性は市民意識調査からもジェンダーに縛られている傾向が強く、特に、性別による役割分担意識の解消と、ワーク・ライフ・バランスの推進を軸として、講座を継続して実施していく必要がある。

これまでの参加者の一部は、当センターの利用登録団体の一員として情報交換、イベントの打合せなど当センターで活動している。また、毎年 11 月に開催する男女共同参画を推進するイベント「アルザフォーラム」の実行委員や、当センターの運営委員となった人もいる。

このように、着実に男女共同参画にかかわる定年期の男性が増えている中で、今後は地域に活動の場を移し、男女が対等な立場で、社会のあらゆる分野に共に参画し、責任を分かち合う男女共同参画社会の実現につなげていくよう支援したい。

(平成 27 年度執筆)



たちの おたし探

～今までよりもこれからを～

生き甲斐を見つけるきっかけ・・・

心が折れない介護等・・・

活き活きと地域と関わりながら生活する知恵を学びます。



テーマ	これからの人生を “生きる”	介護する人 される人 ～充電しながらしなやかに～
日時	1月24日(土) 午後2時から4時	1月31日(土) 午後2時から4時
内容	家族や、地域との関わりながら 生き甲斐を見つける	心が折れないための 介護のスキルを学ぶ
講師	オフィスなかむら代表 中村 彰さん	(社)認知症の人と家族の会新 新潟県支部副代表 等々力 務さん

■会場 新潟市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」(万代市民会館3階)

■対象 定年前後の男性 先着 30人

■申込 電話か「かんたん申し込み」で ※詳しくは裏面をご覧ください

■保育 定員5名 6か月から未就学児まで 保育締め切り 1月13日(火)

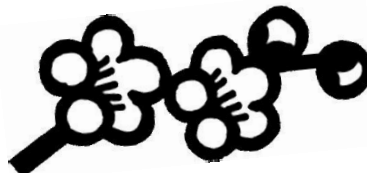
※保育協力費：お子様1人1回200円(2回分前納)

新しい出会い
仲間に乾杯!



参加
無料

保育
あり



31日講座終了後有志による懇親会付

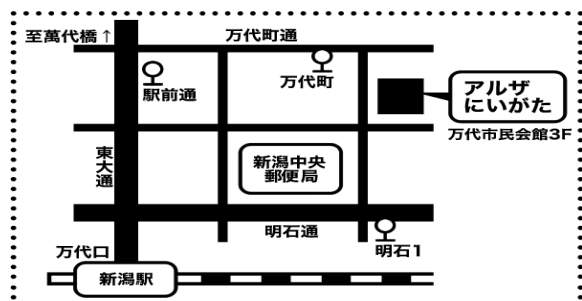
問い合わせ



〒950-0082
新潟市中央区東万代町9-1(万代市民会館3F)
TEL:025-246-7713
FAX 025-246-8080
E-mail alza@city.niigata.lg.jp



アルザにいがたHP



◆新潟駅から徒歩7分。駐車場がありません。周辺の有料駐車場をご利用になるか公共交通機関でお越しください。

【講師プロフィール】



中村 彰さん

1947 年大阪府生まれ。メンズセンター（Men's Center Japan）運営委員。NPO法人SEAN理事。茨木市立太田公民館館長。男性が「男らしさ」に縛られることなく、また女性を抑圧することなく、生き生きと生活できる社会をめざしている。著書は『男性の「生き方」再考—メンズリブからの提唱』ほか。



等々力 務さん

公益社団法人 認知症の人と家族の会 新潟県支部 副代表。

公益社団法人 新潟県介護福祉士会 理事
平成 22 年 8 月に著書「認知症のなっても心は生きている」、平成 26 年 8 月に「誰も知らなかった認知症の話」共に新潟日報事業社より出版。

昨年度好評のため、再び等々力さんをお願いしました！

- 具体的な例が参考になった
- 話しが良く分り非常に勉強になりました
- 豊富な事例に求づいてわかりやすいお話
- 経験豊富な体験談がとても参考になりました

昨年度の
受講者の声

【申込み】

■アルザにいがた 電話：246-7713■

月曜日～金曜日 8：30～17：30

■かんたん申込み■

携帯から⇒ 右の二次元バーコードを読み取ると
「かんたん申込み」画面につながります



PCから⇒ 新潟市役所HP内＜アルザにいがた＞→＜新着情報＞
の講座募集情報から「かんたん申込み」画面につながります

アルザにいがた

